



気づき

清明学園中学校 三年 舞嶋 思音

「なんでこんなに高いのー!」その値段は日本の約二倍で、それをみてとても驚いた。今年の春、家族でグアム旅行に行ったときにスーパーで馴染のある日本のカップラーメンを見つけた時のことだ。

同じ商品なのになぜこんなに違うのか。それをきっかけに私は海外のお金や税金などに興味を持ち調べてみることにした。

今、世界で一番税率が高い国、ハンガリーでは驚異の二十七パーセントで、一番低い国は台湾、カナダで五パーセントだ。国ごとに税率は異なるが、ヨーロッパ諸国では高い消費税率が設定されており、アジア諸国は低くなっている傾向がある。だが、消費税の低いアジアの方が住みやすいかといえば、そうとも言い切れない。なぜなら単に税率だけでは、負担の軽重を図ることができないからだ。税率の高い国は、福祉医療が充実していることが多いことが象徴的であるし、低い国は逆ともいえる。ハンガリーでは基本的な食品や医療品、ヒーティングなど生活必需品は消費税率が五パーセントに軽減され、病院での診察代と学費は無料なのだ。また、「チップス税」と呼ばれる税金がある。正式な名前は「健康増進税」。これは、塩分や糖分の多い食品に課される税金で、ポテトチップ

ス百グラムにつき七円、飲み物のなかには高いもので八十五円の税金がかけられるものもあるそうだ。健康維持を目的とした税金では、アメリカの「ソーダ税」や、イギリスの「渋滞税」、日本の「入湯税」という税がある。これらのように税には国によって違う珍しい税や、消費税又は付加価値税のように身近で毎日のように払う税もある。調べてみると案外面白く、興味深い。そしてそれらは自分達の未来を直結する。

つい最近までずっと思っていたこと、それは「税金なんて払いたくないー!」

税金について初めて学んだのは小学生の授業。国民の義務である、とそう聞いた時は、なんだか大きな物に支配されているかの様な気になり、自分のお金を取られるのは嫌だなあなどそんな気持ちでいっぱいだった。もちろんその時の授業で税の意味や使い方などを聞いたかもしれないが、そんな事はすっかり抜け落ちていた。しかし、今回この作文を書くにあたり税というものについて初めて自分で調べてみて、私達の暮らしや色々な国で同じように国民が心地よく暮らせるのは税のおかげであり、その税を国民が分担し負担することも大変意味があり必要だということがわかった。

「税金を払いたくない」と思っていた自分が少し恥ずかしい。税金とは必要不可欠なものだった。今後は社会貢献も含め、もう少し大人になる意識を持って世の中を見ていきたいと思った。